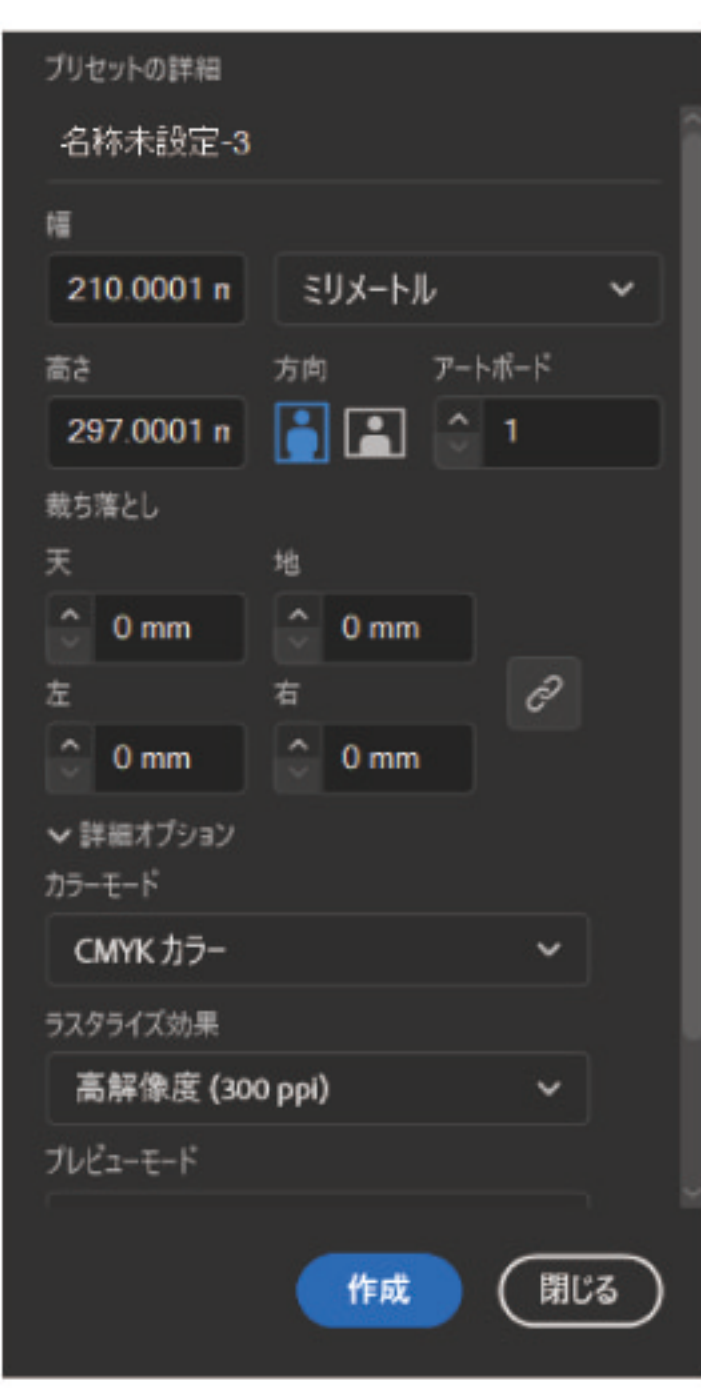


# Adobe illustratorを使う場合

【※】Adobe illustrator(以下「イラレ」)はロゴデザイン印刷物に用いられるソフトで、このパンフレットもイラレで作成しています。ここでは、イラレを使用したワッペン原稿作成のコツを紹介します。**イラレを使える人向け情報であり、サポートは行っていませんのでご了承ください。**(中の人もあまり詳しくないので…)

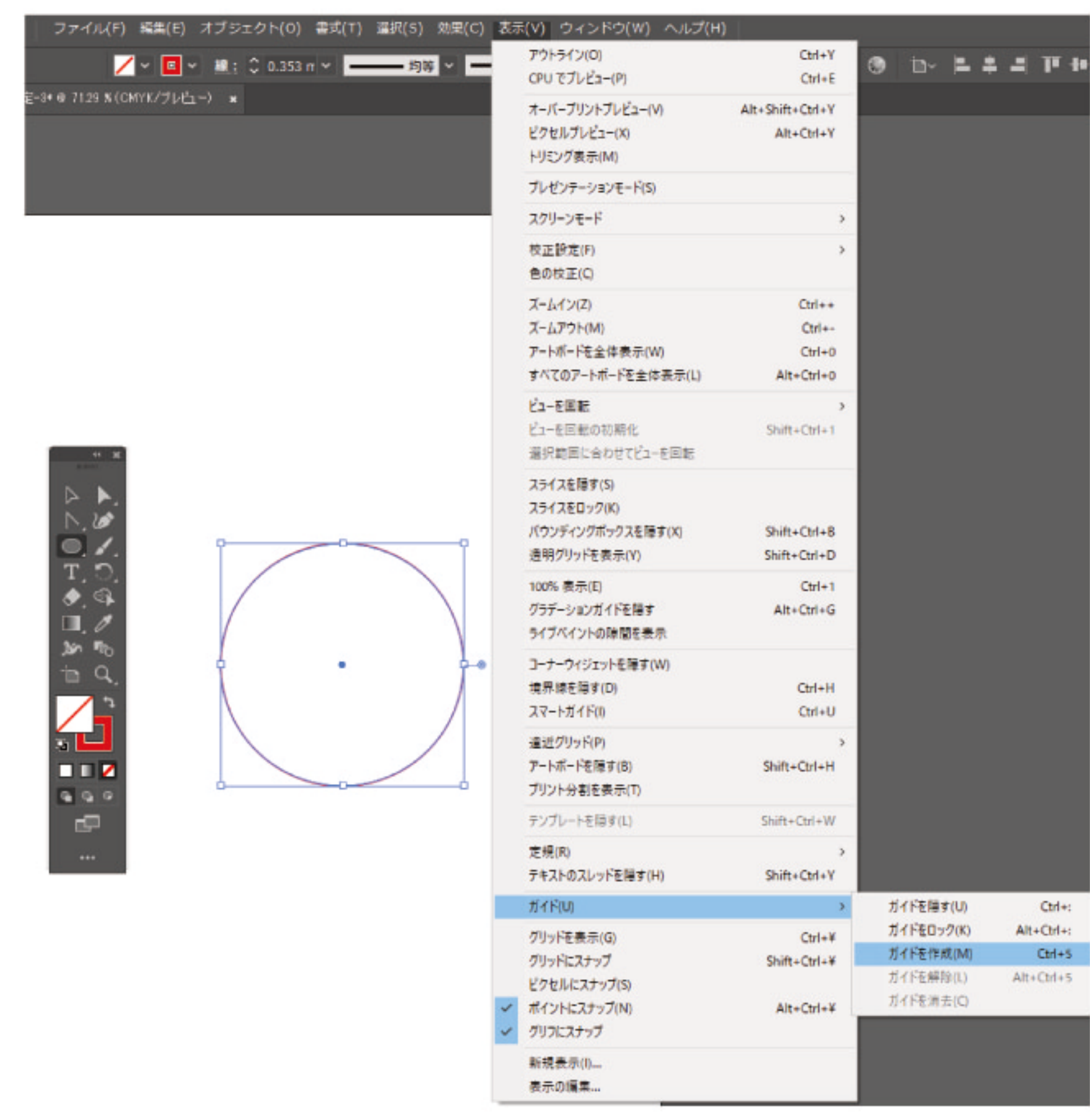
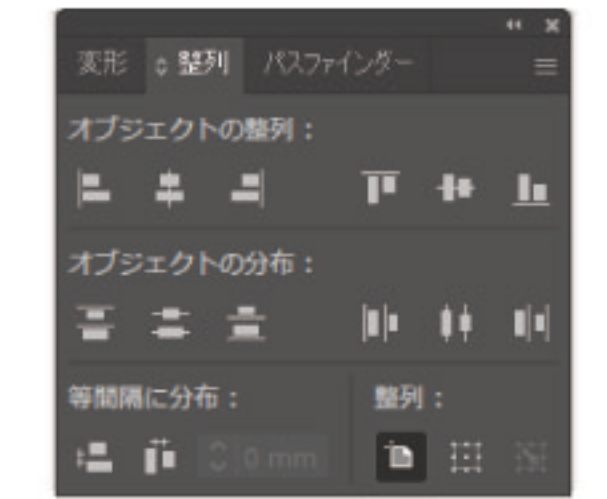
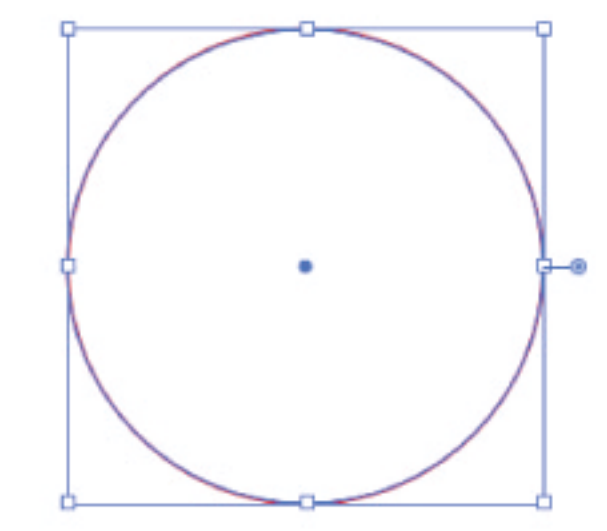
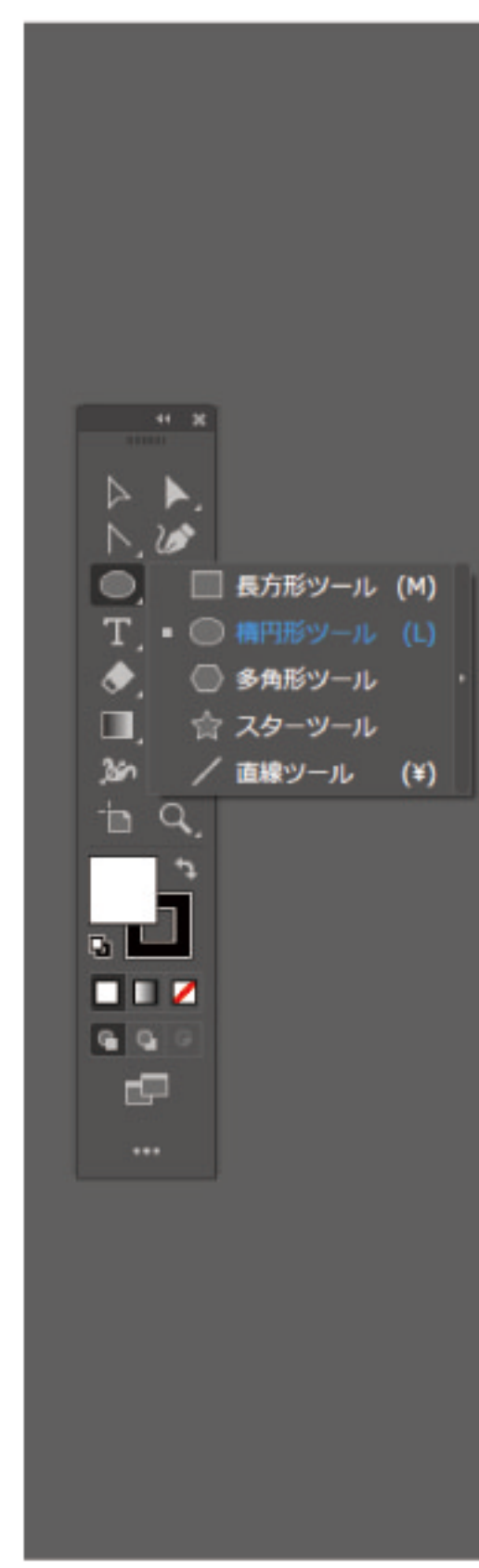
## 【1】手書きの要領で下書きをしておく

クリスタと同様に、P6の要領でイメージの書き出し、簡単な下書きを作成し、あらかじめ刺繍できる線の太さや文字の大きさを把握しておくとういと思います。



## 【2】新規作成

「任意の大きさ」で新規作成します。  
別途、印刷物にする予定があるならば、「CMYK」で設定しておくとういです。

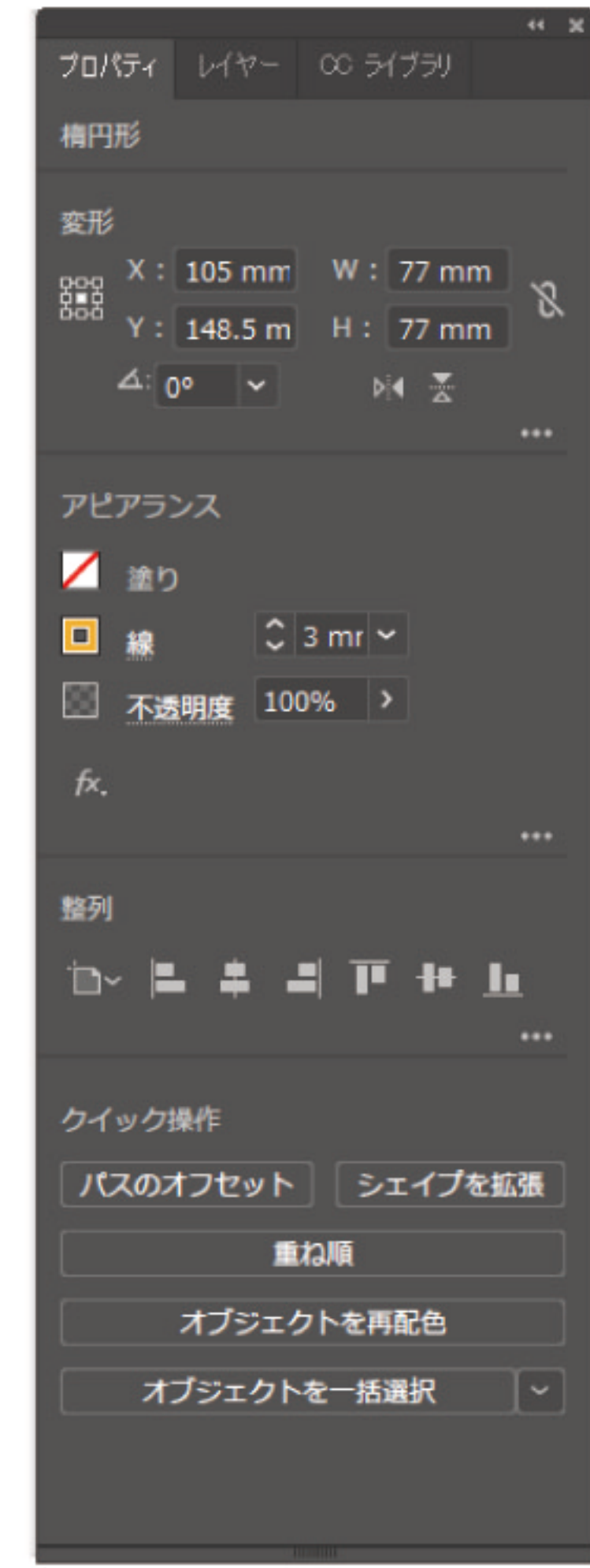
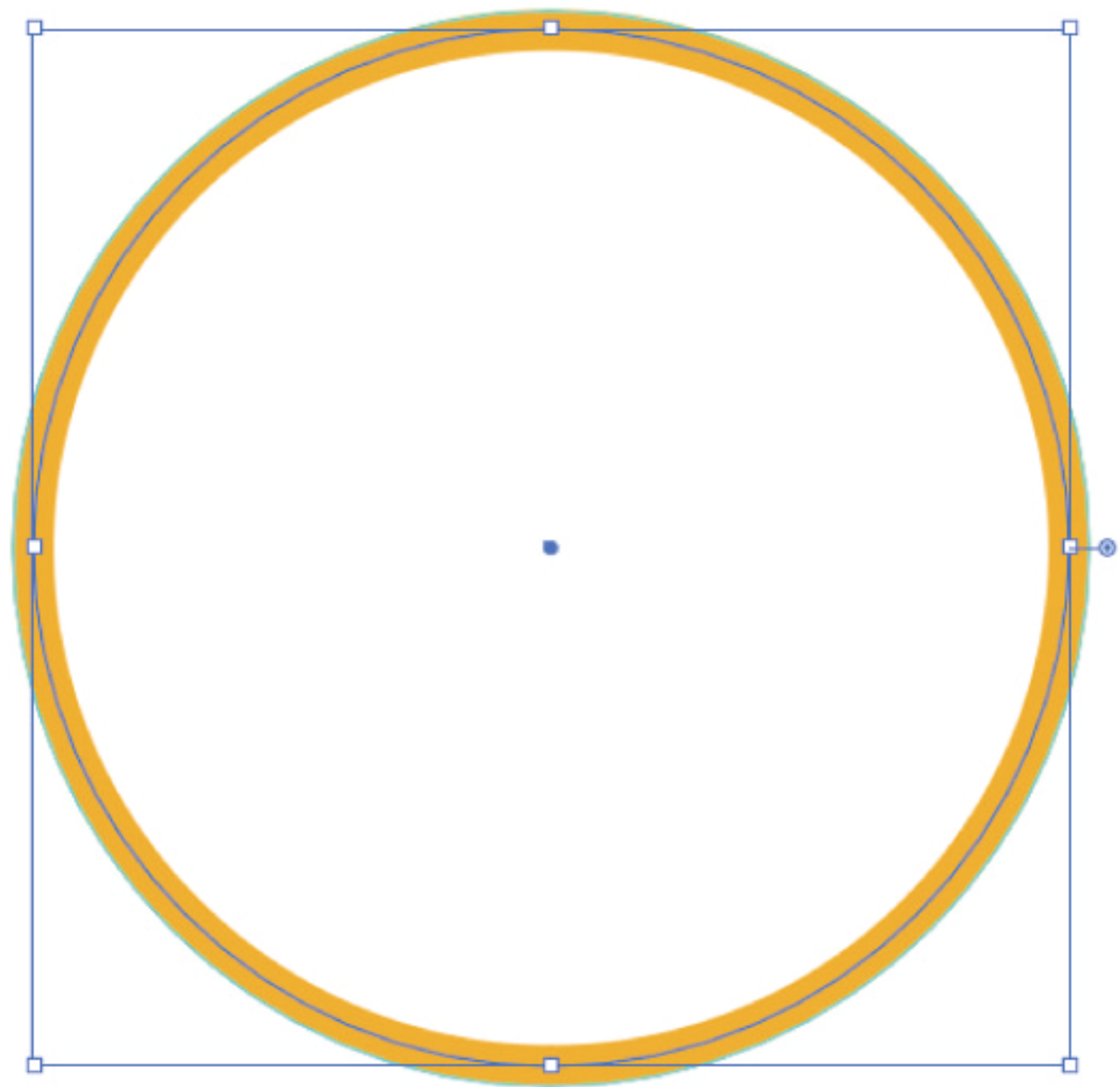


## 【3】ガイドの設定

刺繍パッチのデザインの基本は、**大きさを決め、実寸でデザインする**ことにあります。  
「ガイド」を作り、中に図案を収めることで、実寸で作画できます(作例は円形80mmの場合)  
「長方形ツール」「楕円形ツール」で、線も面も設定されていないオブジェクトを寸法入力で作成し、「ガイドを作成」で水色のガイドに変換します。  
ガイドは整列ツールで中央に寄せ、動かないようレイヤーパレットでロックします。  
なお、デザインデータを刺繍パッチのみに使う場合は、印刷に必要な目印(トンボ)を設定する必要はありません。

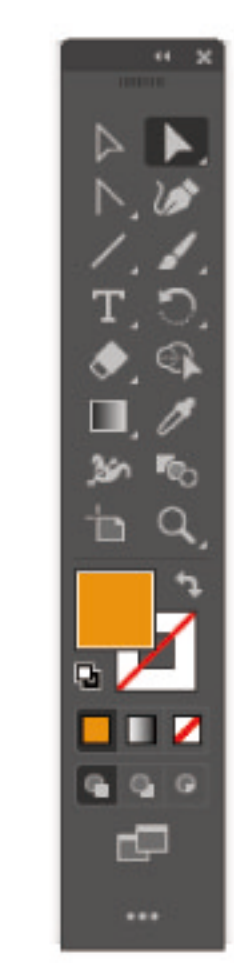
## 【4】パッチのフチの設定

「長方形ツール」「楕円形ツール」などを活用し、パッチの切り出し処理に必要な3mm幅のフチを設定します。  
円形、四角形などの形の場合、「作りたいサイズ-3mm」を入力することで、ちょうどよい大きさに収まります(作例は80mm-3mm=77mm)。  
なお、角型のパッチのフチは、角を2mm以上丸めるようにしてください。



## 【5】図形の描画

各ツールを利用し模様を作ります。各所の線の太さ(基本1mm、最低0.7mm)を確保できるよう注意してください。  
なお、グラデーションはできるだけ使わないようにしてください。刺繍系で再現するため、模様が荒くなります。



## 【6】文字の描画

文字の描画も細い箇所が1mm(最低0.7mm)を確保できるようにしてください。  
円形の文字の配置は「パス上文字ツール」を活用すると便利です。



## 【7】アウトライン化

出来上がったデータを保存したら「別名で保存」し、文字のアウトライン化を行います。アウトライン化されていない場合、PDFデータなどで「文字化け」を起こすことがあります。  
なお、刺繍パッチに関してはJPEGで出力し提出される場合は、その限りではありません。

## 【参考】完成したデータ

直径80mmで作成した参考データ(実寸)です。  
作りながら図案の大きさを調整したり文字などを追加して仕上げました。

